

FUKUOKA FINANCIAL GROUP

FFG 統合報告書2025

一歩先を行く発想で、地域に真のゆたかさを。

FFGの理念体系

FFGの理念体系は、社員一人ひとりが持つべき
考え方や行動のよりどころとなるものです。
わたしたちは、この理念体系をグループ経営の基本としています。



理念に込めた思い

わたしたちのよりどころは、
これからも、「あなたのいちばんに。」
大切な“あなた”、つまり、お客さま、一緒に働く仲間はもちろん、
すべてのステークホルダーにとって、
いちばん身近で、頼れて、先をいく存在でありたい、という想いです。

大切な“あなた”へのそんな想いを抱き、
ありたい未来を日々真摯に問い続ける中に、
「一歩先に行く発想」が生まれます。

期待を超える「一歩先」に行く発想で、
大切な“あなた”のゆたかさを実現する。

そのゆたかさは、
人々の生活や企業の事業など、さまざまなつながりを通じて、
地域へと拡がり、未来へと続いています。

わたしたちFFGが目指すのは、経済的なゆたかさはもちろん、
誰もが、安心や幸せを実感し、それが地域をめぐるような、
そんな「真のゆたかさ」です。

「一歩先に行く発想で、地域に真のゆたかさを。」

わたしたちFFGは、
すべてのステークホルダーと共に、ゆたかな未来に歩を進めます。

「FFG統合報告書2025」編集方針

ふくおかフィナンシャルグループ(以下、FFG)は、投資家さまや従業員をはじめとする全てのステークホルダーの皆さまに、FFGが中長期的に目指す姿をお伝えするため、「統合報告書」を2019年度より作成し、継続的に対話を実施してきました。

これまでの対話を通じて、FFGの「理念」と中長期の「戦略」およびその「つながり」をステークホルダーの皆さまに分かりやすくお伝えし、共感をいただくことの重要性を感じております。

今般、FFGでは、新たな「理念体系」「長期戦略」「第8次中期経営計画」を策定し、2025年4月にスタートさせました。本報告書は、これらの一連のつながりをFFGの「価値創造ストーリー」としてお伝えすることを目的に作成したものです。

FFGは、これからも統合報告書を通じた、ステークホルダーの皆さまとの対話を大切にしていまいります。本報告書につきましても、是非、皆さまから忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

対 象 期 間	2024年4月～2025年3月（一部2025年7月までの内容を含みます。）
対 象 組 織	原則として、ふくおかフィナンシャルグループおよび子会社・関連会社
詳細データ等	詳細なデータについては、「FFGディスクロージャー誌2025 財務データ編」をご覧ください。 SASB対照表を作成し、当社ホームページに開示しています。
各 種 参 照	編集においては、IIRCやWICIなどが推奨する国際統合報告フレームワークや経済産業省による価値共創ガイダンスを参照しています。

FFG統合報告書2025のキーワード

キーワード	解説
理念体系	グループ社員一人ひとりが持つべき考え方や行動のよりどころであり、 グループ経営の基本 となるものです。
わたしたちの価値観 「あなたのいちばんに。」	従業員一人ひとりが持つ価値観を言葉にしたものです。
FFGの存在意義 「一歩先を行く発想で、地域に真のゆたかさを。」	FFGが世の中に提供する価値を言葉にしたものです。
創りたい社会 「経済的・物質的・精神的にゆたかな地域社会」	FFGが目指す社会を言葉にしたものです。
マテリアリティ	創りたい社会の実現に向けてFFGが解決に取り組む重要課題です。
長期戦略	創りたい社会の実現に向けた FY25～34(10年間)の方向性を示す戦略、道標 です。
第8次中期経営計画	長期戦略の実現に向けた FY25～27(3年間)の具体的な実行計画 です。
価値創造プロセス	FFGが 創りたい社会と長期戦略(事業活動)のつながり を示したものです。

商 号	株式会社 ふくおかフィナンシャルグループ(略称FFG)	従 業 員 数	7,928人
所 在 地	福岡県福岡市中央区大手門一丁目8番3号	自 己 資 本 比 率	12.37%
設 立	2007年4月2日	上場証券取引所	東証プライム、福証
資 本 金	1,247億円		

2025年3月末時点

CONTENTS

1. 目指す姿

- 1 FFGの理念体系
- 5 トップメッセージ

2. 価値創造ストーリー

- 15 重要な環境変化とFFGの対応
- 16 長期戦略の全体像
- 17 第8次中期経営計画
- 19 創りたい社会とFFGの事業活動のつながり
- 21 価値創造プロセス
- 23 CFOメッセージ
- 29 社外取締役インタビュー

3. 長期戦略

- 35 I.既存ビジネスの変革
- 39 II.新たな価値創造
- 41 III.新たな収益の獲得
- 43 - みんなの銀行
- 45 IV.アプローチの革新
- 47 - DXで目指す姿
- 49 V.強靱な基盤造り
- 51 - 人的資本経営

4. 持続可能な地域社会の実現

- 61 サステナビリティ方針
- 62 環境課題への取り組み
 - 気候変動対応
- 71 社会課題への取り組み
 - 金融経済教育/人権尊重
- 73 地方創生

5. FFGについて

- 77 成長の軌跡
- 78 組織概要／FFGが培ってきた強み
- 79 熊本銀行頭取メッセージ
- 81 十八親和銀行頭取メッセージ
- 83 福岡中央銀行頭取メッセージ

6. 価値創造を支える力

- 87 コーポレートガバナンス
- 95 コンプライアンス
- 97 リスク管理
- 102 内部監査
- 103 グループ財務データ
- 105 グループ非財務データ
- 107 FFG理念共創プロジェクト

トップメッセージ



ふくおかフィナンシャルグループ
取締役社長
五島 久

TOP MESSAGE

一歩先を行く発想で、地域に真のゆたかさを。

はじめに

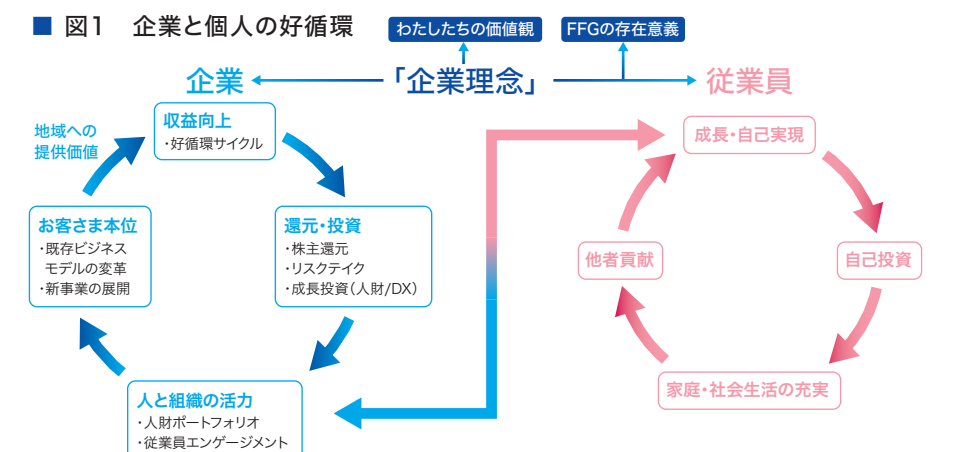
今年も、ふくおかフィナンシャルグループ(以下、FFG)に522人の新しい仲間を迎えることができました。FFGの未来を託す人財ですから、これから大事に育てたいと思います。私は、新入社員研修で彼らに「人生に無駄なことは無い。失敗も挫折も含めて、全てが成長の糧となる。」と話しました。正しい心で、真面目に一生懸命、積極的にチャレンジし、成長してくれることを切に願います。

さて、この4月1日、私たちの新たな「理念体系」と「長期戦略」がスタートしました。これまで私たちが大切にしてきたブランドスローガン「あなたのいちばんに。」を“価値観”として再定義し、“存在意義”を「一歩先を行く発想で、地域に真のゆたかさを。」として新たに決めました。この二つを最上位の「概念」と位置づけ、その発揮に向けた価値創造ストーリーとして10年間の長期戦略を、そして、これらの先にある“創りたい社会”を「経済的・物質的・精神的にゆたかな地域社会」と決めました。

私が社長就任当初から思い描いていた、すべてのステークホルダーの皆さんに共感いただくための“未来への物語り”が、社内での1年半の議論を経て、「FFGの理念」と「長期戦略」としてようやくカタチになりました。

この“物語り”は、私が社長就任時に経営方針として皆さんにお示しした3つのこと、①お客さま本位を徹底する、②人と組織の活力を引き出す、③収益を上げ続ける、がベースです。この①～③を繋がりとして表したのが、「企業の好循環」と「社員の好循環」(図1)です。「お客さま本位」で「収益を上げ」、将来の成長に投資し、地域・投資家に還元することが健全な企業活動であり、「人と組織の活力」つまり、社員の成長実感や自己実現に向けた努力がその原動力です。そして、この両輪を同時に回すことを社長である私の役割として表しています。

これからの10年間、社員一人ひとりがこの“物語り”の主人公として、FFGの幅広いビジネスの舞台で活躍し、「FFGの好循環」と「社員の好循環」が自走していく姿を想像すると、今からワクワクしてきます。



「FFGの理念体系」

昨年度の統合報告書でも一部ご紹介しましたが、“物語り”の根幹ですから、改めて「FFGの理念体系」についてお話しします。

価値観「あなたのいちばんに。」は、FFGを設立（2007年）以来ここまで、私たちの志（ブランドスローガン）として社員全員で大事に育ててきました。大切な“あなた”である全てのステークホルダーにとって、「いちばん身近で、頼れて、先に行く」存在でありたいという想いです。これからも「わたしたちの価値観」として、日々意識し、実践します。

存在意義の前段「一歩先に行く発想」は、FFGがこれまでの歴史で培った強み・ユニークさです。「FFGらしさ」と言っても良いでしょう。お客さまや地域の未来を考え伴走する姿勢、常に変化を先取りして先進的な取組みにチャレンジする企業風土です。

存在意義の後段「地域に真のゆたかさを。」は、私たちの地域への貢献であり、「FFGは何のために存在し、何を為すのか？」という根源的な問いに対する回答です。

ところで、私たちが人生において最終的に求めるものは何でしょうか？多くの人が「幸せ」と答えると思います。経済的な不安がなく、物やサービスが充足し、安心・安全・便利な暮らしのもと、心ゆたかに日々を送る。そんな幸せを誰もが実感できる状態が、「真のゆたかさ＝経済的・物質的・精神的ゆたかさ」の意味であり、私たちが為すべき地域への貢献です。

「千里の道も一歩から」という言葉があります。どんなに大きな目標も、まずは最初の一歩から。社員一人ひとりが、大切な“あなた”に、声で、言葉で、行動で、想いを伝えます。それはお客さまに伝わり、巡り巡って地域のゆたかさに繋がるはずです。ちょっとしたことでもいい。日々考え、行動する。その積み重ねが、目の前の“あなた”から地域の隅々へ。「真のゆたかさ」は拡がり、巡り続けます。



理念共創プロジェクト

2024年9月に「理念体系」を取締役会で決議し、その後、10月から3月までの半年間、社内で「理念共創プロジェクト～みんなで紡ぐ未来への物語り～」を進めました。

私から社員に宛てた手紙やビデオメッセージを皮切りに、私と所属長とのタウンミーティングを計19回（700名が参加）実施、その後、各職場で、社員が「“自分ごと”として理念について考える」ためのワークショップを開催しました。

ワークショップのアウトプットとして、5,000件を超える社員の“想い”が集まりましたので、その一部をご紹介します。

- 誰もが笑顔で暮らせる社会のために、関わる全ての人々の暮らしをゆたかにしたい。その実現に向けて、銀行員という枠を飛び越え、「個」としての能力を高め、他者の立場を真剣に考える。
- 地域のPR強化に取り組み、「安心して働けるゆたかさ日本一のDX推進都市」といった街のブランドを確立させたい。
- 地域で暮らす高齢者が安心して生活できるように、お客さまの家族になったつもりで、お金の色分け、お金の遣い方を一緒に考えていく。
- 支店のメンバー全員でアイデアを出し合い、個人のお客さま向けよろず相談所（ライフデザインセンター：仮称）を創りたい。
- 地域の事業者や自治体との繋がりを強める活動を通じて、誰もが必要なサービスに簡単にアクセスできる仕組みをつくり、便利さと安心感を提供したい。
- 蓄電池や水素など、新たなアセットの知見を蓄積し、九州の企業や要地の事業へ先進的なファイナンスを届けたい。
- 新たな運用戦略の立案や運用対象資産の拡大、運用の効率化等を通じて、投資家に収益をもたらす。

社員一人ひとりが、「理念体系」を“自分ごと”として捉えてくれたことを、とても嬉しく思います。また、社員の想いを読んで、私自身、FFGが目指す「真のゆたかさ」への道筋が見えてきました。

とは言え、「理念体系」の浸透は始まったばかり、これからが本番です。社員がやりがいを持って日々の業務に臨めるように、FFG全社をあげて取り組んでいきます。

下記二次元コードから、私たちの「想い」を集めた動画をご覧いただけます。私たちが目指す「ゆたかな地域社会」について、皆さまにもイメージいただきたいと思います。是非ご覧ください。

■ 私たちが目指すゆたかさ



FFG公式
YouTubeチャンネル



column

「理念共創プロジェクト～みんなで紡ぐ未来への物語り～」でお話したこと

タウンミーティングや社員との意見交換の中で、私は「3人のレンガ職人」の寓話^(※)を紹介し、「心の持ちようが、その人の行動を決め、結果につながる」という話をしています。(図2「冰山モデル」)

同じ仕事をするにしても、その目的や目標が明確であることが、その人の仕事をやりがいのあるものにしてくれるし、成果にもつながりやすいと考えるからです。今回、新たな「理念体系」を定義し、社員全員で共有するもの、こうした考えによるものです。

※3人のレンガ職人の話

旅人が、街で見かけたレンガを積む3人の職人に「何をしているのか?」と尋ねた。

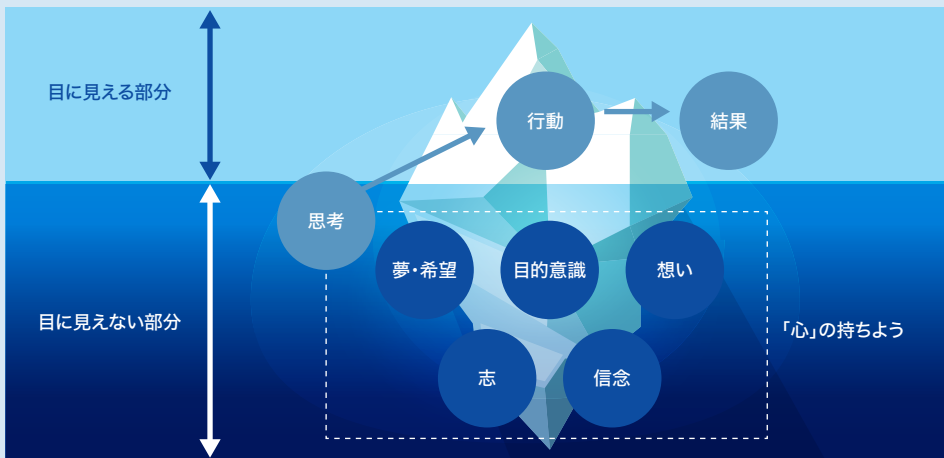
- 1人目:「レンガを積んでいる。暑い日も寒い日も、風の日も一日中だ。」
- 2人目:「レンガを積んで壁を作っている。この仕事のおかげで家族を養える。」
- 3人目:「歴史に残る大聖堂を造っている。ここで多くの人が祝福を受け、悲しみを払うんだ。」

10年後、「3人のその後」はどうなっていたか?

- 1人目: 相変わらずレンガを積んでいる
- 2人目: 危険だが賃金が高い屋根で作業している
- 3人目: 多くの職人を育て、完成した大聖堂に彼の名が命名された

仕事への動機や意識の違いが10年後の姿を大きく変えた、というお話です。

■ 図2 冰山モデル



FFGの長期戦略

「長期戦略」の策定プロセスとその内容についてお話しします。

「長期戦略」は、存在意義の発揮、つまり地域の「真のゆたかさ」実現に向けた10年間のロードマップ(成長戦略)として位置づけました。「長期戦略」の検討にあたり、環境変化とそれに伴う地域への影響を踏まえて、私たちが能動的に解決に取り組むべき重要課題をマテリアリティとして定義しました。マテリアリティは、「地域の産業振興」「人生100年時代への対応」「デジタル社会への対応」「気候変動への対応」の4つです。

事業活動を通じたマテリアリティの解決手段とその事業計画を10年間の「長期戦略」としました。長期戦略の基本方針は以下のI～Vです。【長期戦略の全体像:P16】

I. 既存ビジネスの変革

デジタル/AIを徹底的に活用しながら、アプリ等のデジタルチャネルや店舗等でのコミュニケーションを通じてお客さまを深く理解し、個人のお客さまのライフプランや事業者さまのビジネスに役立つソリューション(商品・サービス)をご提供します。

II. 新たな価値創造

GXやスタートアップなど、今後の九州の成長分野における融資や投資等を強化し、商業銀行を超えた新たな付加価値をご提供し、地域の産業振興に能動的に取り組めます。

III. 新たな収益の獲得

九州域外における投融資や、みんなの銀行等のデジタルビジネス、市場運用部門の強化等を通じて、当社グループのビジネス領域を拡大するとともに、お取引先企業の成長および地域の産業振興に貢献するための収益・ノウハウの獲得を目指します。

IV. アプローチの革新

これまで培ってきた、地域企業や自治体・大学、最先端のノウハウを持つ事業者やファンド等とのつながりを活かした新たなアプローチで、基本方針I, II, IIIの成長を加速させます。

V. 強靱な基盤造り

「グループマネジメントの進化」「人財の獲得・育成」「リスク管理の高度化」など、長期戦略遂行の基盤となる組織力の強化に取り組めます。

事業活動を通じてマテリアリティを解決するために、定量・定性双方の指標を設定し、モニタリングします。経済的なゆたかさを図る指標を「GRP」、物質的・精神的なゆたかさを図る指標を「地域幸福度指標」と位置づけ、これらの向上に貢献することをFFGが目指す社会価値(Impact)としました。

そこから、FFGが事業活動を通じて、社会価値に好影響を及ぼすことができる領域を特定し、「①取引先の社員数の維持・向上」「②取引先の売上高の増加」「③取引先の生産性向上」「④顧客の個人資産増加」「⑤デジタル顧客数の増加」「⑥取引先のCO₂排出量の削減」の6つの項目を長期戦略でFFGが目指す提供価値(Outcome)と決めました。

長期戦略で描くストーリー

それぞれの具体的な取組みの内容については、P35～50に記載していますので、私からは、長期戦略で描くストーリーをお話します。

マテリアリティ解決への重点テーマとして、①地域の産業振興、②人々のゆたかな生活の後押し、に取り組めます。

①地域の産業振興

地域の中核企業を軸とする地域の産業振興に注力します。具体的には、M&Aサポートによる「技術・ノウハウの承継、雇用維持、売上増加」、脱炭素化コンサルティングによる「グローバルなサプライチェーンへの参入」、DX支援やスタートアップとのマッチングによる「生産性向上や新たなビジネスの創出」などです。中核企業の成長は、サプライチェーンや設備投資等を通じて、広く地域のあらゆる産業に波及します。もちろん、並行して中小企業への各種サポートも強化します。その影響は、雇用増加や働く人々の処遇改善、そして個人の資産増加と地域の消費拡大、地域経済の活性化へとつながります。

②人々のゆたかな生活の後押し

金融経済教育を通じて資産運用の必要性や国際分散投資のメリットなどをお伝えし、資産形成・管理をサポートし、加えて住宅ローン・保険・相続などライフプランに応じたサービスを提供します。また、デジタルとFace to Faceの組み合わせでお客さまを深く理解し、最適なタイミング・手段で、金融以外のサービスも含めて提供します。これらが人々のゆたかな生活を後押しし、地域経済の活性化へとつながります。

このように、FFGの「長期戦略」は、私たちが注力する「地域の産業振興」や「人々のゆたかな生活の後押し」を通じて、地域に「経済的・物質的・精神的なゆたかさ」つまり「真のゆたかさ」をもたらす、という未来への道筋を描いています。

こうした未来を実現するためには、M&A・エクイティビジネスに関する能力や、GXの知見や投融資の能力、スタートアップを支援する力、資産運用ビジネスの高度化などが必要です。そのために、外部プレイヤーとの共創関係を積極的に構築します。

あわせて、収益獲得とノウハウを吸収するために九州域外のビジネスも強化します。

また、ビジネス拡大に必要な体力を備えるために、市場運用等を通じた新たな収益の獲得にも積極的に取り組みます。

こうした戦略の実現には、事業ポートフォリオと人財ポートフォリオの連動、人的資本の最大化やリスク管理の高度化、グループ経営体制の進化など、成長戦略を支える経営基盤の構築が不可欠ですから、これらも着実に進めます。

column

経営陣と従業員、双方向の対話促進

支店への直接の訪問やフォーラムに加え、社内SNS「Viva Engage」を活用し、従業員との双方向の対話を促進しています。

従業員1人1人が私と直接話す機会は多くありませんが、SNSであれば投稿に対していつでもコメントができます。従業員が経営陣を身近に感じ、気軽に対話できる組織風土の構築を私が率先して進めています。



五島 久

8月17日

FFG EXPO 2024に参加しました。(イベント内容は、別途お知らせする予定と聞いています。)

初日はパネルディスカッションと本部サポーターの懇親会に参加、2日目は本部・関連会社の各ブースを見学しました。

参加者の皆さんの熱気に圧倒され続けた二日間でした😊

これを機にFFGの営業店・本部・関連会社間相互の理解とコミュニケーションが深まればいいな、と思います👍

EXPOを企画・運営してくれたDX推進本部(＋営業統括部)の皆さん、各ブースを担当してくれた本部・関連会社の皆さん、ありがとう🙏

お疲れ様でした!

第8次中期経営計画

第8次中計では、第7次中計で進めてきた施策の継続的な取組みや、足元の環境変化を踏まえつつ、10年間の長期戦略の1stフェーズとして、将来に向けた成長基盤の構築を進めます。また、急速な環境変化やディスラプションを踏まえて、従来からの考え方を見直し、3年後のマイルストーンを設定した上で、計画は毎年のモニタリングを踏まえてチューニングすることとしました。経済環境のボラティリティが高まっている状況下、期の途中であっても、必要に応じて機動的に計画の見直しを検討します。

第8次中計の基本方針は、先ほどご説明した長期戦略のI～Vと同一です。創りたい社会の実現に向けて設定した「長期戦略の提供価値(①～⑥)」につながる、各重点取組の「業績評価指標」とそれを支える「人的資本指標」の達成を8次中計で目指す到達点(Output)としました。

この業績評価指標および人的資本指標の達成を通じて、第8次中計の最終年度となる2027年度は、連結当期純利益1,000億円、ROE(自己資本利益率)9.0%程度を目指します。

創りたい社会と長期戦略で目指す提供価値、そして、第8次中計の業績目標の内容と、それぞれのつながりについては、P19-20に詳細を記載しています。

第7次中計における課題への対応

2022年度にスタートした第7次中計は、営業改革や業務改革、戦略系子会社の強化など、当初定めた重点取組を着実に実行し、一定の成果を上げることができました。

また、この間、国内外の金利上昇に対応するために有価証券ポートフォリオを再構築し、生成AIの急速な進展をFFGの成長に取り込むためにAI戦略グループを新設しました。

また、貯蓄から投資への機運の高まりやTSMC進出などの事業環境変化をビジネスにつなげるために、各種施策に取り組んできました。

その結果、中計最終年度である2024年度は連結当期純利益721億円、ROE7.4%、自己資本比率10.0%^(※1)、連結OHR(経費率)61.5%と、当初設定した目標経営指標を達成することができました。

一方で5月末日現在、FFGのPBR(株価純資産倍率)は0.8倍程度となっており、未だ低位にあります。PBRは、ROEとPER(株価収益率)の掛け算で表されます^(※2)ので、PBRを向上させるには、ROEとPERの双方を向上させる必要があります。特に、デジタルバンク「みんなの銀行」が当初描いた成長軌道に乗っていないことや、国内金利の上昇に伴う有価証券評価損益の悪化の影響等により、PERが大手他行に比べて相対的に低水準であることは、重要な課題だと認識しています。

第8次中計では、第7次中計の施策効果と金利上昇効果の取り込みで利益を成長させるとともに財務レバレッジのコントロールにより、早期に株主資本コストを上回るROE9.0%程度の実現を目指します。あわせて、みんなの銀行等の成長投資の効果をできるだけ定量的にお示しすることで、投資家の皆さまのFFGに対する将来の収益期待を高めていきます。また、情報開示やIR活動を充実させるとともに、日頃の広報活動ともしっかり連携させて、FFGの価値創造ストーリーをステークホルダーの皆さまにご理解いただくよう努めます。そうした活動を通じて、株主資本コストの低減を図り、市場評価(PER・PBR)の向上を目指します。

※1：パーゼルⅢ最終化(完全適用)ベース

※2：PBR(株価純資産倍率)＝ROE(自己資本利益率)×PER(株価収益率)

みんなの銀行について

2021年国内初のデジタルバンクとして事業を開始したみんなの銀行は、2025年3月末時点で、口座数125万口座、預金残高331億円、ローン残高228億円と事業開始から4年で一定の顧客基盤を獲得しました。

黒字化には未だ距離がありますが、足元では、全国に大規模な顧客基盤を有するパートナー企業との「事業共同化」が具体的に進捗していることに加え、先日公表しましたが、三菱UFJ銀行が新設するデジタルバンクの基幹システムに、ゼロバンク・デザインファクトリー^(※1)が共同開発したフルクラウドのバンキングシステムが採用されるなど、黒字化に向けた手応えを感じています。

2025年度は、①事業共同化、②法人口座や口座振替等の機能強化、③ローンの与信モデル高度化、④九州の地域企業へのBaaS推進を重点取組として、みんなの銀行事業^(※2)の黒字化に向けた飛躍的成長を皆さまに数字でお示ししたいと考えています。

改めて、FFGがみんなの銀行に取り組む意義をお話します。

地域金融機関を取り巻く経営環境は、ネット銀行やネット証券のシェア拡大に加えて、BaaSを活用した非金融事業者の金融参入によって競争が激化しています。

そのような脅威に対して、FFGはみんなの銀行が持つアドバンテージを活用し、地域企業とのBaaSを推進することで、地域プラットフォームならではの利便性と利得性を地域のお客さまに提供します。これは、みんなの銀行設立時に「みんなの銀行がもたらす期待効果をグループに還元し、時代の変化に適合したデジタルバンキンググループを目指す」とご説明したとおりであり、今がまさにそのタイミングだと考えます。

今後もFFGのグループ各社が持つ機能・ノウハウを結集し、FFGグループ全体で「真のゆたかさ」の実現に向けた長期戦略に取り組めます。

※1：みんなの銀行のバンキングシステムを保有するFFGの関連会社。

※2：みんなの銀行とゼロバンク・デザインファクトリーの収益を合算して、「みんなの銀行事業」と称しています。

資本政策について

FFGは設立以来、健全性の維持を前提に成長投資と株主還元のバランスをとった資本運営を基本方針とし、株主還元については、利益成長を伴う配当の維持・増配を基本としてきました。第7次中計の3年間では、180億円(+33%)の利益成長を果たし、40円(+42%)の増配を実現しています。

一方で、第7次中計期間は、自己資本比率が目標レンジに到達していなかったこともあり、株主還元の面では、投資家の皆さまの期待に十分に答えきれていない部分もあったかと思えます。

そのような中、2025年3月末時点で自己資本比率が目標レンジである10～11%の範囲内となったことや、第8次中計の3年間における利益の積み上げ、目標ROE等を総合的に勘案し、2025年度から配当性向を40%に引き上げました。なお、自己株式の取得については、資本の状況や株価、成長投資の機会等を踏まえて実施を検討します。

今後も長期的、持続的な成長と企業価値向上を目指し、投資家の皆さまとの丁寧なコミュニケーションを踏まえた資本運営を行ってまいります。

最後に

今後も、AIをはじめとする技術革新は加速度的に進化し、社会のあらゆる側面に大きな変化をもたらすでしょう。例えば、企業の生産性や生活の利便性が向上する一方でface-to-faceの機会が減少し、人間関係は希薄でドライになる可能性があります。そんな社会が予想される今、常に意識したいのは「人間関係」です。ビジネスは人と人が為すもの、つまり、FFGの戦略やビジネスを考え実行するのは社員一人ひとりであり、その良し悪しを判断するのはお客さま、ということです。

そういう意味で、これからのビジネスには人間的な温かさやつながりがより重要です。社員には、「最後の決め手は人間味。仕事への真摯さ、裏表のない誠実さ、利他(相手への思いやり)を日々意識し、実践しよう!」と呼びかけています。

FFGの社員が同じ「理念(価値観と存在意義)」を共有し、大切な“あなた”の幸せに貢献しようと努力する。それが、ドライな関係の隙間を埋め、人間味あふれるゆたかな地域社会とともにFFGの成長をもたらしてくれると確信します。

FFGのこれからに、是非、ご期待ください。



ふくおかフィナンシャルグループ
取締役社長

五島 久